

# いちひろ

TENRIKYO  
ICHIHIRO BRANCH CHURCH

〒635-0812 奈良県北葛城郡広陵町広瀬306

立教 179 年  
平成 28 年 9 月 17 日  
第 294 号

天理教一広分教会  
☎ 0745 (57) 0076

おことば抄

自由の理は  
結構と思ひながら、  
自由の理が  
分らん。

(明治31年5月9日 夜)

解説 自由(じうよう)という言葉の意味するところは深い。まず第一には、神さまの無限にして絶対的なお働きを頂戴して、私たちは生きています。神の自由の守護なくして、元気に仲良く暮らすことはできない。

この自由のはたらきは、どうして頂けるか。それは、銘々の心一つにある。それには「妬(ねた)みも受けず、嫉(そね)みも受け」ないように心を配ること。これは難しい。自分の心だけの問題ではないからである。けれども「皆日々心の理に(神の働きが)籠(こ)もる」といわれた。「日々」が大事なことになってくる。これが二つ目である。

そのためには、「何事するも話し合い、伝え合いが神の望や」と。これが三つ目である。それには、「おらが合わんという事は言うたらよい。…あんな事というは見て居られん。見苦しいてならん」ともおっしゃる。

けれども「綺麗なものなら、いつ／＼までも楽しんで居られるやろう。ん」といわれ、さらに「晴天この理容易やない。どちらへ行こうと思えば自由。」である、と。心が晴天になれば、すなわち曇りのない、きれいな心になれば、いかようにも自由に行くことができる。これが四番目の意味するところである。すなわち、「ほこりだらけ塵(ちり)」だらけでは、誰が来るものか」とまで仰せになつて居る。きれいな心、晴天の心になるためには、日々にはほこりを払っていくことなければなりません。

おかきさげに「自由という理は何処にあるとは思ふなよ。たゞめん／＼精神一つの理にある。」といわれている。それは、すなわち「誠一つ」ということ。そうした心遣いの積み重ねが「自由の理」を頂戴する土台になる。

# 一広タイ集談所に 参拝の記

城一布教所長 安井清二

9月8日(木)から12日(月)まで、私共夫婦でタイ・バンコクへ行ってきました。もちろん、新しい神棚ができた集談所に参拝することが目的でした。



私は毎年、パーマネット・ビザの更新を兼ねて、この時期にバンコクへ行き、ウィナーさん宅の講社祭を勤めさせて頂いておりました。ところが今回は、一広タイ集談所開設後初めての月次祭ということで、夫婦で訪タイすることにしました。

またミーナさんが修養科タイ語コースを修了してくれ、帰国しておりましたので、その修理丹精も心において、出発しました。

彼女はタイから離れて、おぢばで修養するという貴重な経験をしてくれました。果たして、おぢばで学んだことを持って帰って、日々の生活に生かしてくれているかな、そんな思いがありました。

修養科で学んだ教えが、これからの彼女の人生に、新しい発見と自信がついたのかが重要です。タイの皆さまから、ミーナさんは、おぢばから帰って来て、笑顔が増えたとの報告を聞き、嬉しく、ありがたく思いました。

そしてまた、次へのステップのために家内が教えたケーキづくりの手順を、いろいろとチェックしてくれたので、彼女も一層自信がついたのではないかと、そのように思われました。

9月10日(土)は、一広タイ集談所のおつ



とめでした。十七名の奉仕者をお与えいただき、その参拝者で祭典ができるように、また、全員が朝夕のおつとめの手を覚えるように指導してくれとの、会長からの話でしたので、その点に留意しつつ、講話は「八つのほこり」を皆で読み唱え(これは行きたびに読んでいますので)、座りづとめ、の意義を説明しました。そして順次、覚えて頂くように伝えたいのです。

ミーナさんは、修養科を修了したほやほやですので、おつとめの指導に積極的に対応してくれました。ありがとうございました。

そののち、ウィナー集談所長のはじめての挨拶がありました。身体の具合の悪い方二名におさづけを取り次がせていただき、ご守護を願いました。さらに、直会は所長とピーちゃん心の心づくしの料理でした。和気藹(あい)々

と歓談する中に、次回を約して散会。

参拝者の意識や信仰心が少しずつ変化しつつあることを感じたことが、一番の喜びでもありました。

翌11日はタイ出張所の月次祭に参拝し、ミーナさんの修養科修了のお礼を申し上げ、担任先生であった宮本先生にも挨拶をし、お礼申し上げました。12日は所用を片付け、深夜便で帰国の途に。夫婦お互い名古屋行きと大阪行きの違いはありましたが、やはり寝不足で、年々回復が遅れています。年の所為かな。

### 私のタイ集談所参拝 安井和栄

4月に12名のタイからの団参があり、立山ツアーには私も参加。6月にはカイちゃん宅に集談所が開設。その折には、城一布教所の神棚の写真を送りました、それを参考にして、不思議な導きで立派な祭壇が出来上がったのですね。「近いうちに参拝させて頂くね」と言っておりましたので、この月、主人のビザ更新に同行することにしました。実物の祭壇はたいへん立派で、何より落ち着きます。

参拝した皆さんにお会いすることは、第一の目的ですが、もう一つありました。

修養科を修了したミーナさんの希望で、多

治見に9日間滞在し、その間ケーキ作りをしました。材料が手に入り易く、作り易いシフォンケーキ、チーズケーキ二種、カステラプリン、大学芋を一通り作りました。プリンは天平庵の方がおいしい(当然です)。オレンジ入りチーズケーキは手間も材料もかかる割に、ミーナさん好みではなかった。カステラは少しむづかしいということで、シフォンケーキとシンプルチーズケーキにしぼり、ミーナさん一人で焼けるように練習しました。私の第一号のお弟子さんです。その後の様子も知りましたので。

ミーナ宅の台所で、二人でシフォンケーキ、次はチーズケーキ。最初に焼いたケーキが冷えたら、型からはずしてもう一度、シフォン。10日の月次祭に皆さんに食べて頂くのと、11日の出張所へのお供え、ということ、心を込めて焼きました。私はほとんど手を出さず、細かいところをカイちゃんに通訊してもらって、アドバイスのみでした。

翌日の集談所の月次祭には、4月の団参に参加して下さいました。スミトラ先生は、仕事を早めに終わらせて、会議を休んで来て下さったそうで、ありがたいことです。

集談所のおつとめの後の直会は、カイちゃん、ピーちゃんの心づくしの料理。それも和食でした。なごやかに、おしゃべりをしながらの会食は、一広の直会とまったく同じです。そしてミーナさんのケーキ。皆さんがおいしいと喜んで食べてくださり、その時のミーナさんの、心からの笑顔を見ることができ、ほんとうに嬉しかったです。これで私の目的は達成です。

ところが、もう一つ。平成24年、大教会創立120周年に來られたディアンさんからメッセージと手作りのポーチが届きました。トーンタウイさんのスマホでお話(ありがとう、元気ですか、というくらいの挨拶)することができました。4年前に一度会っただけなのに、こんなふうに覚えていてくれるということに、衝撃を受けました。

最近、日本では断・捨・離ブームで、物だけでなく、人間関係さえも希薄になってきています。切っていくのではなく、せつかく与えて頂いた出会いを大切にしながら、改めて教わりました。

さらに、ピーちゃんにパッタイの作り方を教わりました。忘れないうちに作ってみたいと思っっています。乞うご期待。

